

鎌倉楽しむ会

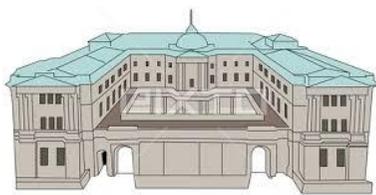
日本の中枢部を探訪 日本銀行本店と 東証 Arrows



地下鉄三越前駅 A8 出口

平成29年3月22日

日本銀行本店



貨幣博物館のHPより

● 江戸時代、現在の日本銀行本店の場所には「金座」がありました。金座は、江戸幕府勘定奉行の管理の下で、幕府発行の金貨である小判などを製造していた役所です。金座のあった日本橋周辺には、両替商や数多くの商店が軒を連ね日本橋川沿いには魚市場が広がり、活況を呈していました。

● 日本銀行の誕生は、明治15年(1882)10月10日に開業しました。開業当時は永代橋際(現在の日本橋箱崎町)にあった北海道開拓使出張所の建物を本店として開業しました。この建物は明治政府が招いたイギリス人建築家ジョサイア・コンドルによって設計されました。

● 永代橋の本店は、手狭で、官庁や商業・金融の中心地からも離れていたため、現在の本店の場所である日本橋本石町に新築移転することとなりました。

● 設計はコンドルの弟子であり、東京駅などの作品で有名な「辰野金吾」によってなされ、明治23年(1890)着工、明治29年(1896)3月に落成し、翌4月に永代橋の店舗から移転しました。

● 日本橋は交通・商業の中心地で、当時、駿河町の三井銀行、兜町の第一国立銀行をはじめ、多くの金融機関が集まっています。また、常盤橋を渡ると紙幣寮をはじめとする官庁街が広がっていました。

貨幣博物館



● 館内の壁画には古代から近世までの貨幣の歴史が大きくキャッチコピーと風刺画で描かれている。「貨幣の実物を見て欲しい」と展示台には古代の貨幣から近代の日本銀行紙幣まで展示され、さらには「和同開珎」で何が買えたのか?など体験学習が面白い!です。

一石橋と石標



● 江戸時代の日本橋〜一石橋界隈は盛り場で、迷子や尋ね人が多かったようです。当時迷子は町内が責任を持つことになっており、安政4年(1857)近隣の町名主などが世話人となり、一石橋に迷子探しの告知石碑が建立されました。

● 正面に「満(ま)よひの志(し)るべ」、左側に「たづぬる方」、右側に「志(し)らす類(る)方」と刻まれています。両側の上部に方形の窪みがあり、左側の窪みに迷子や

尋ね人の特徴を書いた紙を貼り、心当たりがある人はその旨を書いて右側の窪みに貼りました。江戸庶民の告知板でした。同様のものが、湯島天神(現存)や浅草寺(復元)など、往来の多い場所に同様のものがありました。

● 一石橋の北に金座支配の後藤庄三郎、南に呉服町頭取の後藤縫殿助の屋敷があり、五斗+五斗=一石という洒落で名づけられたといわれる歴史の古い橋です。

パソナ農援隊



● 人材派遣会社の大手で、会長に経済学者の竹中平蔵さんがなられています。東京駅前大手町の旧大和証券オフェスビルをリノベーション工事して、1F中央エントランスホールに16.5Mx5.4Mの「水田」を演出して稲を育ててい

ます。まさに、「植物工場」です。その他にトマト、葉物野菜、カボチャ、キュウリ、パパイア、バラなども水耕栽培されています。LED照明で育つ天井野菜を見学することも可能などです。

西河岸地蔵



● 安置されている地藏菩薩は、第44代元正天皇(715-724)の時、行基菩薩が遠州四方城(静岡県引佐郡)で、2尺8寸の御尊像を刻したと伝えられています。この地藏菩薩は天海僧正の御持仏で、「日限地藏尊」と呼ばれ、ことに延命祈願に靈驗あらたかな事と言われているということです。

榮太樓



- 文政元年(1818)埼玉県飯能市より江戸に出て、日本橋の地で、屋台で「きんつば」を売り、当時の魚河岸で評判となる。安政7年(1857)に現在の地に独立の店を構え、屋号を「榮太樓」とした。現在のビルは昭和37年竣工。
- 昼食は榮太樓ビル喫茶室「雪月花」でいただく予定。

黒江屋の擬宝珠



- 元禄2年(1689)漆器しつぎの名産地、紀州国名草黒江村(現在の海南市)から江戸へ出て、日本橋で漆器店を始める。第二次世界大戦後の混乱期に古物商が擬宝珠を売りにきた。それが、木造の日本橋の擬宝珠で「万治元年戊戌(1658)9月吉日日本橋御大工椎名兵庫」の刻印があり、お宝としてウインドウに飾っている。

日本橋由来記



- 国指定重要文化財・日本橋がはじめて架けられたのは徳川家康公が幕府を開いた慶長八年(1603)と伝えられています。幕府は東海道をはじめとする五街道の起点を日本橋とし、重要な水路であった日本橋川と交差する点として江戸経済の中心となっていました。橋詰には高札場があり、魚河岸があったことでも有名です。安藤広重の錦絵も超有名です。

歴史的建造物



- 野村證券
昭和5年(1930)竣工。最上階が江戸風の格子模様のデザイン。支柱が一本18トンという巨大な鉄骨を使用し、見た目が「軍艦」と称される。
- 三菱倉庫
昭和5年竣工、建物上に取り付けられた塔屋は巨大客船のようである。日本橋側には、河川から荷物を陸揚げするときの施設の跡が残っている。

日本橋郵便局



- 前島密公まえじまひそかの発議により明治4年(1871)東京大阪間で官営の郵便事業が始まる。前島公は11年に亘り郵便事業を育成し、その基礎を創った。そのため「郵便事業の父」と称えられている。現在でも一円切手の肖像として有名です。

兜神社



- 東京株式取引所が、明治11年(1878)に営業開始に当たり、取引関係者一同の信仰の象徴と鎮守として創建された。境内には、源義家が前九年の役(1050年)のとき、戦勝を祈願したと伝えられる「兜岩」があります。これが、日本橋兜町の由来ともなっています。

東証 Arrows



- 日本最大の金融取引所。世界的にみて、ニューヨーク証券取引所、ロンドン証券取引所と並んで「世界三大市場」に挙げられ、世界経済の中核の一角を担っています。明治11年の営業開始で、戦前の活況は「獅子文六先生」の小説「大番」に書かれているように、また、加藤大介主演の映画に

なつてヒットし、テレビでは渥美清が、この役で世に躍り出たように、一夜成金、一夜乞食の世界があるとまで言われた証拠金取引や差金決済取引中心の投機色の強い性格の市場の面も多くあった。戦時中の市場は閉鎖に追い込まれたが、戦後は昭和24年(1949)より「東京証券取引所」として再開した。電子決済の波で、株券売買立会場は平成11年(1999)閉鎖され、跡地に東証 Arrowsとして平成12年9月にオープンしました。

第一国立銀行跡



- 画像は、明治6年(1873)に創設された日本最初の銀行「第一国立銀行」です。「国立」となっているが完全な民間経営で、日本初の

株式会社の銀行です。当初民間でありながら、紙幣の発行が認められていた(ただし、兌換紙幣)。明治15年(1882)に政府は日本銀行を創設し、紙幣の発行は日銀の専管事項になります。明治29年(1896)国立銀行はすべて普通銀行になり、第一国立銀行は第一銀行となりました。

* 今後訪ねたいお店 *

- ① 小津和紙…江戸時代・承応二年(1653)の創業。手漉き和紙2,000種を取り揃え、体験工房があります。
- ② にんべん…江戸時代・元禄12年(1699)の創業。店内で削った、削りたての本枯節も購入できる。
- ③ 神茂…江戸時代・元禄元年(1688)創業。「半べん」が超有名です。
- ④ 福德神社…貞観年間(859~876)にこの地に鎮座
- ⑤ 薬祖神社…医薬の太祖大己貴命、少彦名命を祀る。
おなむらのみこと すくぬりこのみこと